

1年間の集大成 ―令和6年度「SS 発展探究」課題研究発表会・SS 部研究発表会―

◇期 日： 令和7年1月31日（金）

◇場 所： 本校第一体育館

◇参加者： 本校探究科学科1・2年生徒159名、SS 部員、
課題研究指導の富山大学の先生方、本校教職員、教育関係者、保護者等

今回の発表会では、1年間の研究をポスター形式で発表した。ポスターセッションは単なる発表ではなく、聴き手により近づいて活発に議論を交わすことが特徴である。12月に行われた探究科学科の三校合同発表会では生徒同士の意見交換や交流が主だったが、今回は大学の先生方や探究活動の指導に当たる先生方とのセッションが多かった。今回は以前の発表の反省点も踏まえ、話し方や質問への対応がより洗練させた。1回20分のコアタイムを各班2回行うものであったが、時間のすべてを使い、活発に議論をかわす姿が印象的であった。



1年間かけて行ってきた研究では、伝えたいことがたくさんあるので、いかに自分たちの研究が意義のあるもので面白いのかを聴き手に簡潔にわかりやすく伝えることは難しい。そこで大切なのが、導入部分であると考えた。研究の目的と目的達成のために何を行ったのかが聴き手の第一印象となり、ポスターセッションのカギとなる。また、伝えきれないことは、質問時間に伝える。質問の意図を踏まえたうえで、追加の情報や研究への熱意を伝えることができる。これらのことを意識して、積極的なポスターセッションが行われていたため、1年間の集大成をしっかりと伝えきれたと考えている。

閉会式での言葉にもよく出ていたが、研究は通常思い通りにはいかない。1年間の研究でうまく進んだ期間のほうが少ないだろう。しかし、実験を正確に行っていればそれが世の中の原理を切り取った結果であり、それが予想と異なっているほうが、新しい発見につながるのである。そんな小さな発見の連続が大きな発見となるのが研究の面白いところだ。この貴重な機会を将来に生かし、これからも常に探究力に磨きをかけていきたい。

